

耳鼻いんこう科

小児の耳鼻いんこう科疾患のうち手術が必要な症例、一般の耳鼻科では検査や治療が難しい症例、あるいは他に合併症のある症例を対象にしています。
また言語治療部門では幼少児の難聴や言語発達遅滞、構音障害の診断・治療に取り組んでいます。

1. 外来

医師2名と言語聴覚士1名で診察にあたっています。

月・火・木・金の週4日が外来診療日です。新患・再来ともに診察や説明に十分な時間を取るために、すべて予約制で行っています。年間に1,000名程度の新患の方が受診されています。

ファイバースコープによる鼻咽喉の診察所見や顕微鏡による耳の診察所見をモニターで供覧しながら、ご家族にわかりやすい説明を行うように心がけています。

当科で診察している疾患には下記のようなものがあります。

耳疾患：滲出性中耳炎、急性中耳炎、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、先天性耳瘻孔、副耳、難聴など

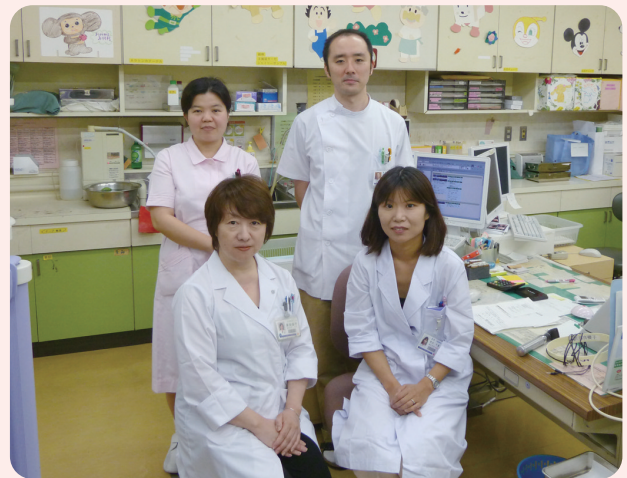
鼻疾患：副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻出血、鼻茸など

口腔・咽頭疾患：口蓋扁桃肥大、アデノイド肥大、慢性扁桃炎、舌小帯短縮症など

喉頭・気管疾患：声帯結節、喉頭炎、喉頭軟弱症、声帯麻痺、気道狭窄、喘鳴、気管支異物など

頸部疾患：頸部腫瘍、頸部膿瘍、反復性耳下腺炎など

その他：構音障害、吃音、顔面神経麻痺、言語発達遅滞など



2. 手術

外来で行う小手術は別として、原則として入院の上、全身麻酔下に行っています。年間の手術件数（入院）は300件程度です。アデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、鼓膜チューブ挿入術を中心に慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術、先天性耳瘻管摘出術、頸部嚢胞摘出術など頭頸部先天異常に伴う疾患の手術などを行っています。

また小児の気道管理に関連して、気道狭窄の原因精査のための喉頭直達鏡検査、気管支ファイバー検査や気管切開を行っています。

3. 言語治療部門

難聴児や言語発達遅滞児、口蓋裂その他の器質的・機能的な構音障害児の診断・治療に取り組んでいます。

近年、新生児聴覚スクリーニングが普及しつつありますが、当科は要精密検査と判定された場合の受け入れ施設となっており、難聴児の早期発見、早期療育開始に貢献できるよう努力しています。

Doctor MESSAGE ドクターメッセージ

病状や治療方針の説明に十分な時間をとり、患者さまやご家族にできるだけ納得し安心してお帰りいただきたいと考えております。

耳鼻いんこう科は、診察するだけでお子さまに恐怖感を与えてしまう診療科のナンバーワンかもしれません。患者さまやご家族がなるべくリラックスして診察が受けられるよう、また可能な限り痛い思いをしないですむよう、スタッフ一同平日頃から心がけております。ただ小さな耳・鼻・のどを安全にかつ十分に診察するためには、患者さまをしっかりと固定しなければならぬ場合もありますのでご協力ください。

また病状や治療方針の説明に十分な時間をとり、患者さまやご家族にできるだけ納得し安心してお帰りいただきたいと考えています。そのため診察はすべて予約制にしております。すぐに受診できない場合もあるかと思いますがどうぞご了承ください。こども病院の耳鼻いんこう科、すなわち小児耳鼻いんこう科としての専門性が発揮できるよう、スタッフ各自の技術・知識を向上させ、また地域の診療所・病院や大学と連携を深めて診療にあたりたいと考えています。



耳鼻いんこう科／押川 千恵